（大正八年三月廿日第三種郵便物認可）　昭和二年七月六日　THE IWAKIJIHO　（水曜日）　第四千五十二號　（一）

五夕日刊

磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四
發行人　岡田弘藏
印刷所　磐城時報社
福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷人　新藤源藏
福島縣石城郡平町紺屋町十五
發行所　磐城時報社
一部金貳錢一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊（日曜、祭日）休刊

炭礦側と町村側が家屋税で紛糾

結局は行政訴訟か

石城郡内の炭礦所在地湯本、内郷、磐崎各村では今回家屋税を炭鑛長屋にまで賦課する事に決定したので炭礦側では常磐炭礦聯合會を開きその賦課は鑛業法第八十八條に違反するものだとして強硬に反對し目下紛糾を續けてゐるが、町村側では既に決定したのだから撤回する事が出來ぬと飽くまで賦課せんとし容易に解決する模樣が見ないが結局常磐炭礦聯合會では町村を相手に行政訴訟を提起する模樣である、之について某消息通は語る「鑛業法第八十八條によれば直接鑛業用に供する工作物には課税されぬ事になつてゐるが長屋は直接鑛業用に供されゝかに否かゞ問題でこの見解の相違からこんな問題が起つた事と思ふ云々」

米、麥作減收豫想

石城郡地方本年度米、麥作第一回豫想は近く郡農會で調査する筈であるが昨年度の米作十六萬八百五十三石、麥作四萬二千七十六石に比し今年は概々部分的に降雹を見殊に干害の影響をうけて伸張、分け共思はしからず収穫增減の分れ目は梅雨期の天候如何で殊に六月中旬から本月中旬にかけての雨量照り具合の天候如何にまたねば確實な豫想は困難とされるが、現在の處では郡内各地とも一般に水不足を告げ植付不能の耕作面積でさへ四十町歩に亘り四日來の慈雨でこの植付けも幾分進められる模樣であるが結局郡農會では昨年より二割方減收するものであらうと豫想してゐる。

▲騷擾事件公判

湯本町入山炭礦爭議の際騷擾罪に問はれた日本坑夫組合田村勝美外十三名の第二回公判は九日午前十時から平支部に開廷の筈で辯護人は三輪壽壯氏である。

磐城青年同盟會四倉座で發會式

會衆千五百餘名盛會を極む

午後から演説會

磐城青年同盟會發會式は五日午前十時四倉座に開き創立委員長二木村守江氏の開會挨拶あり直ちに同氏が座長に推され馬上豊氏創立の經過を報告し綱領、宣言三、朗讀あり約一千五百名の會衆は之を拍手で可決　次いで會則の制定は委員に一任し役員選擧に入り會長に磐城セメント會社山崎正策氏、副會長に木村守江氏を推し正午閉會、午後一時から演説會に移り元代議士伯爵有馬頼寧氏外數氏の演説あり盛會を極めた、綱領左の如し。

綱領

一、我等は青年の思想を善導し質實剛健なる精神で勤儉力行の氣風を涵養せんことを期す

二、我等は青年の向上に依り自治体の發達及社會改善の爲に寄與せん事を期す

三、我等は青年の活動に依り産業と教育を振興せしめ文化の發展を圖り國運の伸張に貢献せん事を期す

磐城青年同盟會

湯本の豪遊客は數千圓の詐欺漢

茨城縣茨城郡山根村生れ窃盗前科二犯加倉井弘彦（二五）は水戸市で數千圓の詐欺を働らき數日前から湯本町字日渡に潜伏し夜間になると湯本町料理店を廻つて豪遊してゐた事平署に探知され三日取押へ取調べの上水戸警察署に移送した。

▲勞黨委員會

日勞黨磐城支部黨務執行委員會は十日午後支部内に開き來る縣會議員選擧に對する對策等協議する

▲牛乳衛生組合

石城郡内牛乳搾取業者は今回乳用牛並乳質の改善を計る爲石城牛乳衛生組合を組織したが役員如左▲組合長岡田次作▲副組合長若松武一郎▲評議員小濱長太郎、鈴木藤吉、鈴木久吉

▲平禪學會例會

平禪學會は五日午後七時から磐城銀行樓上に開く。

息子の家に戻つて鹽酸をのんで自殺

當時好間村上好間隅田川炭礦長屋居住内郷村綴生れ無職吉田大進（五七）は二日午後七時頃内郷村大字高坂字代の長男榮太郎方に於て鹽酸を飲み自殺を計り苦悶中を榮太郎の妻が發見手當中であるが生命危篤である、大進は壯年の折實家を飛び出し各地を流流中妻チノを聚り二人の間に長男榮太郎、進の二兒を設けたが榮太郎は八歳の折他家に奉公に出し行衛不明となつてゐたが二十七年を經過して去る三月榮太郎は廻り廻つて内郷村磐城炭礦高坂坑火夫となつたのを大進がふとした事から知りそれ以來榮太郎は大進に米を送つてゐた處、二日午後突然大進は榮太郎方に來り妻が長男幸一を風呂に入れてゐる間に前記の始末に及んだもので大進は中風のため半身不隨であつたといふから之は悲觀した結果自殺を計つたものである。

▲野村氏送別宴

石城郡駐在農林技師から縣農會主任技師に榮轉した野村直雅氏は來る十日頃赴任する筈であるが在平新聞記者は四日午後六時から旗亭やぶに於て送別の宴を張つたが出席者は飛入れとして樫村平署長、山野邊東次郎兩氏の外半谷國民、八代東朝、杉本東日、樋田時事、榎本報知、柏木いばらき、山田民報、佐藤民友、渡邊福新、坂本、田村兩磐新、佐藤、國田兩時報等各氏で盛會を極めた。

内郷村五人殺しの豫審漸く終結

磐城青年同盟會宣言文

去る三月内郷村大字白水大越五中途になつて陳述を翻へしたのを再調査をしたゝめと又物的證據が容易に經まらなかつたのでかく日數を要したものであるとこの慈雨で

東京株式清算取引高低表

◎第一部

		寄付	止
泉株（當）			
（中）			
（先）			
同新（當）			
（中）			
（先）			
郵船	同新		
富紡	同新		
同新	二新	盛糖	五〇六
鐘紡	同新		
同新	新高	六〇九	
日糖	同新		
	九二七	濱取	

◎第二部

麥酒			
同新	一四〇〇	麥鑛熱帶	六二六 三五三

◎第三部

自動	三四五	樺太	五四八
同新	一二三	日魯	一一六
富紙	七五〇	同新	九三四
同新		日粉	

短期前場

自煉	二七一	磐セ	五八一	東株ハ當中先限 他株ハ先限ノミ	
日セ					
淺野	七八七	久原	五三四		
同新	三四六	同新			
		日石	五一七		

塩水	寄付	高値	安値	引値	
久原	五〇四	五〇五	五〇三	五〇五	
新淺	五〇〇	五三三	五〇八	五〇八	
日石	三四二	三四五	三四一	三四四	
新鐘	五一八	五一九	五一八	五一九	
東	一三三五	一三三七	一三三四	一三三四	
	一三八八	一三八一	一三八五	一三八六	

東京商品取引（七月五日前場）

◎期米

六限	七限	八限	
一節	三七四三	三七五九	三七五一
二節	三七四一	三七六〇	三七五四
三節	三七三九	三七六〇	三七五一
四節	三七四〇	三七五九	三七五一
五節	三七四三	三七五三	三七五三
六節	三七四八	三七六二	三七五九
七節	—	—	三七五九
八節	—	—	三七五一

◎綿糸

一節	二節	三節	四節
七限	三一〇七	三一〇九	—
八限	三一三八	—	—
九限	三一六〇	三一七九	—
十限	三一八〇	三一八七	—
十一限	三一八九	三一八五	—
一限	三一九〇	三一九〇	—
	三一九〇	三一八四	三一八三

◎生糸

一節	二節		
七限	三九八	三九四	—
八限	三九九	三九五	—
九限	三九六	三九六	—
十限	四〇〇	三九八	—
十一限	三九五	三九五	—

旅館常盤
松ヶ岡公園は
深緑に變る
綠滴るばかりの
公園池畔
初夏の情景
をた慕ひあれ
松ヶ岡公園池畔　電話二二六番

印刷物は　加納活版所

磐城時報

磐城と味噌
福島縣平町
山崎合名會社
電話（營業部專用一〇番 一般用二二七番）
振替東京一九七五五番
上野車坂四三
東京支店
電話下谷五七一二番
振替東京六八三一二番

◎簡易の金融—誠意と堅實　◎趣味の貯蓄—共存と共榮
▲絶へず會員を募ります　▲何時でも御申込下さい
大藏省免許
磐城無盡商會
本店植田町本丁　支店平町中丁

婦人病血の道の妙藥
美味にして強壮の効著大
血をふやし肉を肥やす
ズボン飴
滋養強壮
本舗　大阪東區谷町壹檜尾長命堂
各藥舗食料品店
定價壹圓・貳圓・徳用五
代理店
山野邊藥局
平町五丁目角

◎家庭になくてならぬもの
寒暖計體温計各種
イマッ蠅取粉　小三〇　半ポンド一・二〇　一ポンド二・〇〇
度量衡計量器指定販賣人
平　西村屋藥局　二
電三番

海へ!!!
山へ!!!
海水浴着と登山袋
携帶用鞄各種
運送に最も理想的なズック製布團入
酷暑を避けて!!!
ツルヤ洋品店
平町四丁目（電話百四十番）

開始
柳川
御一人前　出前
四拾錢　迅速
本年も相變らず御贔負の程願ひます
牛肉御料理
石川亭
平町田町（電話四三番）

惡性ノ皮膚病ト花柳病ノ豫防ニハ
セイビ
一個　五十錢　三十錢
特約店
磐城平町
開内藥局
電四〇番

平町病醫院案内

內科外科　婦人科小兒科　花柳病科
磐城病院
田町本通り（電話一一四番）

耳鼻咽喉科
大和田醫院
南町（電話一七〇番）

齒科專門
原齒科醫院
土橋通り（電話三一番）

內科外科　耳鼻咽喉科　花柳病科
高久病院
田町（電話一三五番）

內科胃腸病科　梅毒病科　淋病科
松村病院
南町（電話一〇七番）

外科專門
上田外科醫院
南町（電話一二九番）

外科一般　婦人科　耳鼻咽喉科
赤心堂病院
田町（電話四七五番）

眼科專門
吉田眼科醫院
紺屋町（電話六八番）

內科、外科　淋病、黴毒科
藤沼醫院
紺屋町（電話五一七番）